

2012年夏の主役は経大準硬式野球部!

経スボ



本学準硬式野球部が、第64回全日本準硬式野球選手権大会で見事ベスト4進出を果たした。

1回戦 東北学院戦では、4回に山本（人科1年）の三塁打で先制、スクイズで追加点を奪いこのリードを手中（経営1年）生田（経営3年）の継投で守りきり3対1で勝利。危なげなく初戦を突破した。

続く2回戦の相手は好投手を擁する名門愛知学院大学。接戦が予想されたがエース生田が得意のスライダーを駆使した気迫のピッチングで相手チームに得点を許さない。味方が4回に挙げた虎の子の1点をこのまま生田が守りきり1対0の完封勝利で2回戦も突破した。

準々決勝は関西の強豪校として名を馳せる同志社大学。関西有数の強豪校と言われる本学をもつてしてもここ数年、練習試合を含め一度も勝ったことのない相手であった。しかし、波に乗る本学準硬式野球部は、4回に冲（経情4年）のタイムリーで先制、上田（経情3年）も続き、7回にはチームの主砲・柳生（経済4年）のレフトへの犠犠フライで3点目を奪い取った。

そして迎えた準決勝、相手は今大会の優勝候補筆頭と言われているディフェンディングチャンピオン中央大学。炎天下の連戦で選手達の疲れはピークであつたが「大会前から中央大学と戦うことを目指していた」部員達は、大学関係者、OB、そして控え選手達の大聲援をバックに、気力を振り絞りチャンピオン中央大学に挑んだ。2回に上田の犠牲フライで1点を先制するも、6回に逆転を許し1対2とされる。その後、逆転を信じてスタンド一体となつて選手達は懸命の反撃を試みるが、中央大学の堅いの守りに一步及ばず、1対2で惜敗となつた。本学準硬式野球部悲願である2度目の全国制覇は叶わなかつたが全国の強豪校を次々と倒して勝ち上

A group of young baseball players in uniforms are standing on wooden bleachers in a stadium. They are looking towards the field where a game is being played. The stadium has a green grass field and a chain-link fence in the background.

かり、その後、大会二連覇を成し遂げた中央大学をここまで苦しめてのベスト4は大躍進と言えるであろう。

また、花村（人科2年）を中心とした本学の応援は対戦相手からも「敵ながらあっぱれ」と賞賛され、その応援は日本一であつたと言つても過言ではないであろう。「マウンドでも応援はよく聞こえた。ピッチの時に何度も勇気付けられた」とは工大ス生田の弁。この全員野球が準硬式野球部を全国ベスト4に導いた原動力となつたことは疑いようがない。今大会で部を牽引してくれた4年生達は引退となつたところ、「関西で勝ち上がる」とは脅威となるであろう。キャプテン原に今後の抱負を聞いてみたところ、「関西で勝ち上がる」とは大変ですが来年も必ず全国大会に出場します」と力強く語ってくれた。今後の準硬式野球部に大いに期待したい。

発刊：大阪経済大学
スポーツ文化振興室

卷四